

2024年7月7日

「復活の希望」

使徒言行録 24:10-23

早川 真牧師

今私たちは聖霊降臨節を過ごしていますが、聖霊の働きがなければ、福音が力強く宣べ伝えられていくことはありませんでした。聖霊は今も私たちの内に働き、私たちを通して、神の福音を伝えておられます。

今朝の箇所には、「パウロ、フェリクスの前で弁明する」という小見出しが付けられていますが、パウロはこの時、自己弁明をしていたのでしょうか。一見そのように見えます。しかしパウロは自分の命を救うために自己弁明をしたというよりは、このような機会をも用いて、キリストの福音を伝えるために弁明をしていたのであります。そして、実はパウロの弁明は、パウロの内に働く聖霊の弁明でした。聖霊は、神御自身の霊であり、イエス・キリストを信じる者の内に住んで、語るべき言葉を教えてくださいます。パウロはその聖霊によって、大胆に弁明をさせて頂いていたのでした。

聖書は、全ての人はやがて神の裁きの座の前に立つと語っています。そして、神の前に正しい者だと言える人は誰一人としていないと語っています。そうであるならば、死者の復活は、私たちにとって希望ではなく、絶望ではないのでしょうか。しかし、パウロがここで、復活を希望として語る事ができたのは、自分に強力な弁護者、聖霊がいたからだと言えます。この聖霊の弁護のもとに、パウロは自分にとって復活は希望であると言えたのではないのでしょうか。聖霊は、救い主イエス・キリストの正しさに与った者を、生涯助け導いてくださるお方です。聖霊は私たちの助け主としていつも共にいて、私たちを弁護し、慰め、励まし、力づけてくださいます。この弁護者なる聖霊と共に、私たちもまた、復活の希望の内を歩んでまいりたいと思います。